

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101052
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム ジェントルハートみつ
所在地	松山市梅田町4番35号
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別支援に力を入れ取り組んでいる。
利用者と職員が笑顔でいられる居場所作りを行っている。
水分アップや歩行距離を増やすなどして下剤に頼らない支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三津浜埠頭の近くにある事業所のサンルームからは海の絶景が眺められ、利用者は船の行き来を見つづつろいでいる。夏の花火大会には、家族等にも来てもらい花火を楽しむことができた。事業所は小規模特別養護老人ホームやデイサービスを併設する高齢者福祉施設で、1階のフロアを利用して、音楽療法で季節の歌やハンドベルの演奏を楽しんだり、小学生の歌とリコーダー演奏の訪問など合同のイベントを楽しんでいる。法人として「不適切ケアチェックシート」「自己評価チェックシート」を活用し、職員自身のケアを振り返り、利用者の尊厳を守り自立支援に努めるなど、サービスの向上に繋げている。開設1年目の事業所であるが、施設長を中心に地域に出向き、事業所への理解と協力を働きかけ、地域とのつながりを持てるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ジェントルハートみつ

(ユニット名) 鈴音

記入者(管理者)
氏名 浅原 健二

評価完了日 26 年 11 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念とは別に、グループホームの理念、目標を全職員と一緒に考え、それぞれのユニットに掲示し、日々、共有と確認ができるようにしている。	
			(外部評価) 法人全体の基本理念と基本方針とは別に、「ご利用者様の尊厳を大切にし、個別支援に努める」という事業所独自の理念を作成している。さらに、職員間で話し合い、ユニット毎の目標を作成し、実践できるように努めている。申し送り時等に法人の基本理念等を唱和し、職員に意識づけをしている。利用者が笑顔で生活できるよう、職員も笑顔で対応することを心がけて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校の運動会の応援や、地方祭で子供たちや地域にお住まいの方との交流を図っている。また、施設に子供達を呼び、来ていただくことでオープンな施設作りに取り組んでいる。	
			(外部評価) 高齢者福祉施設の開設時に施設長が地域に出向き、事業所の説明を行い協力を働きかけている。地方祭には神輿や子どもたちの訪問がある。小学校が近く運動会に参加見学したり、小学生が事業所を訪れ歌を歌ってくれたりリコーダーを演奏してくれるなど、相互の交流をしている。小学生の訪問時には肩も叩いてくれ、涙を流す利用者もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献は当法人の理念でもあり、地方祭などで地域の青年や子供達と交流し、認知症の理解に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、利用者状況や、行なわれた行事、今後 の行事予定を報告している。運営推進会議の中で、出席さ れた方の意見を吸い上げ、今後の参考にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、施設長等の参 加を得て開催している。会議では利用者の状況や活動報告 のほか、参加者から意見を聞いている。家族は仕事や遠方 の方が多いため参加は少ないが、参加した家族から意見や 要望を聞き、サービスの向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居者の空き状況の報告、包括に状況を知っていただくな ど情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者には運営推進会議に参加してもらっているが、意 見交換にはいたっていない。地域包括支援センター主催の 三津浜地区グループホーム連絡会に参加し、事業所の状況 報告など情報交換をしており、今後さらに協力関係を築い ていきたいと考えている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束の研修に参加し、身体拘束をしない正しいケアの 知識を身につけ、日々取り組んでいる。不適切ケアチェッ クシートも活用し、普段行っていることを振り返り、身体 拘束をしないように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 身体拘束に関する研修を実施して職員に理解を促し、参加 できなかった職員には資料等を回覧している。法人で「身 体拘束チェックシート」と「不適切ケアチェックシート」 を作成し、定期的に職員へ確認している。事業所は高齢者 福祉施設の2階にあり、出入りできるエレベーターがリビ ングから死角となる場合が多いため、安全のため使用には 暗証番号の入力が必要となっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止研修を受け、どういときに虐待が起こるのかなどを学ぶ機会を持ち、虐待防止に取り組んでいる。虐待の前の段階の不適切なケアについて3ヶ月に1回チェックして虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の勉強会を開き、その知識を習得している。今後も権利擁護については学ぶ機会をもつ予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や申し込み時に説明を行い、その際に不安や疑問点を伺っている。契約を解約できること、退所できることを説明し、納得して契約をしていただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名での意見をいただけるようにしている。利用者さまの暮らしなど、面会時や電話で話したときなどにお伝えし、要望を伺っている。	
			(外部評価) 意見箱を設置し、自由に意見を出してもらえるようにしているが、ほとんど要望等は出てこない。面会時に職員から家族に話しかけ、してもらいたいことなどを聞き対応している。家族から「居室をきれいに掃除してほしい。」という意見が出され、清潔保持に努めている。また、家族から「訪問者へのお礼をしたい」という意見など相談に応じている。利用者から「冬物を取りに帰りたい」という意見が出され、家族に相談し実現している。利用者の買い物など外出の希望もあり、個別支援を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に一度、ワーカー会やサービス向上委員会を開き、提案 などを聞く機会を持てるようにしている。職員の意見は次 の月の活動状況や、今度の運営に活かせるよう反映してい る。 (外部評価) 事前に職員から行事にしたいことなどの意見や要望を出し てもらい、フロア会やサービス向上委員会、褥瘡委員会等 で話し合いをして反映するように努めている。職員から 「利用者を外に連れて行ってあげたい」という意見が出さ れ、検討している。具体的にはレクリエーションや外出支 援など利用者との関わりの中で感じた提案などが多く、反 映できるよう努めている。また、職員には3か月に1回 「自己評価チェックシート」を記入してもらい、ユニット リーダー等が確認し話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 年2回、職員個々の努力、実績を評価し、給与などの賃金 アップなど、努力が反映する環境や条件が整い、やりがい を持って仕事ができている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間活動計画の中に、内部、外部などの研修を予定し、研 修を受ける機会を設け、技術の向上に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ケアマネージャーが地域のグループホームとの交流会など で意見交換ができるよう取組みを予定している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に面談し、ご本人やご家族の困っていること、要望 をできるだけ多く聞きだせるように取り組んでいる。入所 後はこまめに声をかけたり、関わることでホームでの生活 がスムーズにできるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様がどう困っていて、入所の経緯に至ったのか、今後どういう支援を望んでいるのかに耳を傾け、それに応える努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今まで利用されていたサービスを入所で切ってしまうのではなく、他のサービスを継続して利用しながら馴れていただくことを説明し、実行している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 清掃をしていただく、食器を洗っていただくなど、ご利用者と職員が共に生活ができる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者の買い物などを、できるだけ家族様にお願いし、積極的に面会に来てもらえるようお願いしている。ホームに入ってから、以前から関係のある地域との交流に参加できるよう家族様にも協力していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前から通われていた囲碁クラブへの継続的な参加ができるようご家族の協力のもと支援に取り組んでいる。 (外部評価) 三津地区の利用者が多く友人や知人の訪問があり、職員は訪問しやすいよう心がけている。囲碁が趣味の利用者には囲碁クラブに継続して参加できるよう支援している。以前から親交のある教会の牧師が月2回訪問してくれている。家族の協力を得て、お盆に自宅に帰ったりお墓参りに出かけている利用者もいる。月2回施設の1階のフロアを使用し、音楽療法で季節の歌を歌ったりハンドベルの演奏を楽しんでおり、特別養護老人ホームの利用者とも顔馴染みの関係となってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が居室で話をしたり、一緒に散歩をしたりして関わり合いをもたれている。また、ご利用者様が1人であるときなどは孤立しないよう職員が声をかけたり、間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設の空き待ちで入居しているなど、相談にのりながら支援している。契約が終了しても特養に移るなどの体制を整えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所時や日頃より、ご本人やご家族の意向を伺っている。本人様から伺うのが難しいときや、ご家族から特に要望などがなければ、本人様が何を望むのか職員と話し合い、考えながら対応している。 (外部評価) 入居時に利用者から思いや意向の聞き取りをしている。思いを聞くことが困難な利用者には、家族から情報を聞いている。利用者毎の担当者を決め、家族にもこまめに連絡を取り、職員全員で話し合いながら利用者本位のサービス提供に繋げている。職員から「本人のしたいことを手紙などで伝えてはどうか」という意見が出され、現在検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、聞き取りなどで、これまでのライフスタイルを把握し、ご家族にも伺い、情報収集に努めている。面談記録に記録している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り、記録、直接本人と話をしたりして関わることで、心身の状態の把握に努めている。複数の職員からも話を聞き現状把握に努めている。情報をアセスメント表に記録し把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族から、今まで困っていたことや要望などを伺い、ホーム職員だけでなく、今まで関わりをもたれていた方の意見なども参考にアイデアを提供してもらい現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者自身に意見などの確認が難しい場合には、家族や職員の意見を聞きながら、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回カンファレンスで職員等の意見を出し合い見直しをしている。職員同士が日々の関わりの中で気付いたことや改善したらと良い思うことなどを確認し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、心身の状態、行動を24時間シートに記録し、情報の共有、ケアプランへの反映に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ホームだけではなく、特養とも協力し、それぞれに別れて入所している家族と面会してもらうなど柔軟に対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 囲碁クラブへの参加、小学校の運動会の応援、消防署の避難訓練へのご利用者の参加など、地域との交流や防災などに参加していただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人、ご家族に入所時に医療を受ける際の希望を聞き、 要望に沿って対応をしている。以前より関わりのあった医 療機関とも継続して受診ができるよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続することはできる が、月2回往診での健康管理をしてもらえることから、希望 して協力医をかかりつけ医に変更する利用者が多い。眼科 や皮膚科などの専門医は、家族が受診介助しているが、必 要に応じて職員が同行する場合もある。併設の小規模特別 養護老人ホームと兼務であるが、看護師が常駐しており、 緊急時にも迅速に対応できる体制が取れている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホームには特養と兼務する看護師がいる。健康面での困っ た事の相談や、医療とのつながりの間に入ってもらい適切 な医療、看護が受けられるようにして支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 今後、ご利用者が入院した場合、情報収集、情報交換、ご 家族との話し合いをし、誠意を持って対応していく。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) これまでにホームで終末期を迎えたご利用者はおられない が、早い段階から適切な対応ができるよう研修などを行 い、対応できるよう取り組んでいく。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、入所時に利用者や家族 の看取りの希望があれば、実践できることを伝えている。 以前他の施設で看取りを経験した職員はいるが、開設1年 目のため事業所での看取りの経験はない。看取りへの家族 の理解と職員の不安の軽減のため、今後勉強会を予定して いる。急変の可能性ある利用者が現在おり、近くの総合病 院と連絡を密にしながら対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故、感染症、急変時の対応マニュアルがある。緊急時、適切な対応ができるよう、確認を行い、迅速で適切な対応ができるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 海沿いにホームが建っていることもあり、運営推進会議でも取り上げられた。消防署の避難訓練時、津波がきた時の対応についてレクチャーを受け、最前の避難方法を学んだ。消防の避難訓練を回覧し全職員に周知した。 (外部評価) 高齢福祉施設合同で消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、利用者も一緒に参加して初期消火などを行い、アドバイスももらっている。事業所の隣には消防署があり、避難場所となっている小学校は近くにあるため、災害発生時には迅速に対応することができ安心感がある。事業所は海沿いにあるため、道路より土地を高くして建築をしている。また、施設全体で備蓄品を用意している。	事業所は2階にあり夜間などの災害発生時には、職員だけの避難誘導には限界があるため、地域住民にも呼びかけ避難訓練に参加してもらったり、高齢者福祉施設内の構造や避難ルートを知ってもらったりするなど、協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 当グループホームの理念に尊厳を大切にすることが掲げられている。言葉遣いも不適切ケアチェックや自己評価チェックシートで定期的に自らを振り返り、誇りや、プライバシーを損ねないよう取り組んでいる。 (外部評価) 介助時や日常会話など不適切な行為や声かけはないか「不適切ケアチェックシート」を使用し、振り返りや確認を行い、適切なケアや言葉づかいができるよう努めている。気になることがある場合には、職員同士で話し合いをしたり注意し合ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 朝食時の飲み物を希望の飲み物にすることや、10時15時の飲み物をお茶かコーヒーにするかなど本人の希望を伺い対応している。「～しましょう」ではなく、「～しませんか」「何がいいですか」の問いかけをするなど、ご本人に選択できるような声かけをするように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各ユニットの目標に「自分らしく」や、「その人らしさ」が掲げられている。また、入浴なども本人が希望しなければ日を変更するなどして、できるだけ希望に沿う対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧品などをご本人にもってきていただき、愛用の化粧品で化粧をしていただいているご利用者もいる。入浴後の髪形など、こだわりのある方にはその人らしさを出すように心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は厨房にて調理しているが、カレーやおやつ作りなどではそれぞれの力が活かせるよう取り組んでいる。できるだけご利用者が作り、職員はサポートし支援している。	
			(外部評価) 管理栄養士がメニューを決め、高齢者福祉施設合同の厨房で調理している。利用者から食事がつまらないという意見が出され、管理栄養士等と相談し月2回利用者の希望のメニューが提供できるようになった。利用者と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。また、カレーやシチューの日を設け、ユニットのキッチンで利用者と一緒に野菜の皮むきなど調理をしたり、週2回おはぎやさくら餅などのおやつを利用者と一緒に作り、食が楽しみになる工夫もしている。また、準備や食器洗いを自分の役割として手伝っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量をチェックしてどのくらい摂取できているか確認している。食事のペースがゆっくりな方などは無理に勧めることのないようケアプランにも入れ支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケア時、自分で歯磨きができる方には自分でしていただき、清潔にできているかを職員が確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレの周りでそわそわしていたり、落ち着きがないような時には、トイレの声かけや誘導をし失敗をしないように取り組んでいる。すぐにオムツにするのではなく、立位が保てる方や、座位保持が可能な方はトイレで排泄していただくようにしている。	
			(外部評価) 家族から自宅でトイレの場所が認識できないため失禁があったという利用者の経験などを聞き、24時間シートの排泄チェックを確認しながら、さり気なく誘導したり介助をしたりしている。自力でトイレに行ける利用者には、見守りで対応している。なるべく自然排便できるように歩行や運動をしたり、お茶やシロップゼリーなどで水分補給をしてもらい、自然な排便ができるよう努めている。また、オムツを使用している利用者など、状態に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には、歩行をケアプランに入れるなどをして腸の活性を促し、便秘予防に取り組んでいる。また、水分量を増やすことで自然排便ができるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したくないと言われたときは別の日に入浴してもらうなど、本人の希望に沿って入浴ができるよう対応している。	
			(外部評価) 週2回を基本として入浴することができる。毎日入浴したいという希望はないが、一番風呂や湯加減などの希望に沿えるよう支援している。個別浴槽や手すりは可動式で、利用者の状態や職員の介助がしやすいよう変更でき、自立に向けた支援をしている。その日の気分で入浴したがる利用者には無理強いせず、入浴日を変更したり時間や職員を代えて声かけを工夫したりしている。同性介助の対応もしている。また、高齢者福祉施設の3階には特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて使用し、安心安全に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者の状態を見ながら、休息等をとっていただき、体調に応じた生活リズムを考えて対応している。寝かせきりや、起こしっぱなしを防ぎ、夜間もよく休んでいただけるよう昼夜の調整を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報提供表などをおき、確認できるようにしている。重要な薬に関しては副作用などを理解し状態の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 世話好きな方には人との関わりを、家事が好きな人には掃除などをしていただき、気分転換や達成感のある生活の支援に取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外部のサービス（ヘルパーさんなど）を利用したり、家族との協力で外出してもらっている。 (外部評価) 外の空気を吸いに散歩に出ることはあるが、事業所は高齢者施設の2階にあるため、なかなか外出する機会は少ない。事業所内の廊下は長く、歩いたり1階にジュース等を買に行ったりしている。利用者全員でドライブに出かけたことがあるが、それ以外の買い物などの外出は少ない。以前から利用していた外部のサービスや家族の協力で外出している利用者もいる。管理者は利用者一人ひとりの個別の外出支援や希望に添った外出計画を検討している。	自宅となるべく同じように過ごしていただくためにも、日頃から庭に出て季節の花や木々を見たり、買い物に出かけたりするなど気分転換し、利用者の心や身体が活性化することを期待したい。また、家族の協力だけでなく、ボランティアの協力や職員の工夫で外出をする機会が増えることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者様了解のもと、持てる方にはお金を所持していただいている。外出時は各自お金を持ち、買い物をしていただいている。施設内自販機などで自由に選びジュースを買ったりしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族と話をしたいと話される時、訴え時はいつでも家族と電話連絡をとり、話をしてもらっている。また、手紙のやりとりも自由にいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日清掃を行い、居心地のよい共用空間作りに努めている。照明の明るさに配慮したり、窓を開けるなどして季節の空気を感じていただいている。壁のデコレーションも季節ごとに変えて季節感を出している。	
			(外部評価) 事業所から海が近く、サンルームのソファから海の絶景が眺められ、利用者は船の行き来を見ながらくつろいでいる。廊下等にはマッサージチェアやソファ等が置かれ、テレビを見たり洗濯物を畳んだりするなど、利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごしている。空気清浄機が置かれ、快適な環境づくりをしている。また、壁には利用者と一緒に作った季節の折り紙が飾られ、季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 海が見える部屋でゆっくり過ごしていただいたり、ソファに座り複数のご利用者で談話をしながら過ごしていただいたりと思い思いに自由に過ごしていただいている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にアルバムを置く、写真立てを置くなどして本人が居心地よく過ごせるようにしている。今まで使用していた家具を置き居心地よく生活してもらっている。	
			(外部評価) 居室はベッドや洗面台、エアコン、クローゼットなどが備え付けられている。自宅から利用者の使い慣れたソファやテレビ、ぬいぐるみなどを持ち込み、家族の写真を飾るなど居心地の良い空間づくりをしている。居室の床にはカーペットや畳を敷き、靴を脱いでゆっくりソファなどでくつろげるようにしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、浴室、トイレ、洗面台に手すりをつけられることを活かせるように工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101052
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム ジェントルハートみつ
所在地	松山市梅田町4番35号
自己評価作成日	平成 26 年 11 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個別支援に力を入れ取り組んでいる。 利用者と職員が笑顔でいられる居場所作りを行っている。 水分アップや歩行距離を増やすなどして下剤に頼らない支援を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>三津浜埠頭の近くにある事業所のサンルームからは海の絶景が眺められ、利用者は船の行き来を見つづつろいでいる。夏の花火大会には、家族等にも来てもらい花火を楽しむことができた。事業所は小規模特別養護老人ホームやデイサービスを併設する高齢者福祉施設で、1階のフロアを利用して、音楽療法で季節の歌やハンドベルの演奏を楽しんだり、小学生の歌とリコーダー演奏の訪問など合同のイベントを楽しんでいる。法人として「不適切ケアチェックシート」「自己評価チェックシート」を活用し、職員自身のケアを振り返り、利用者の尊厳を守り自立支援に努めるなど、サービスの向上に繋げている。開設1年目の事業所であるが、施設長を中心に地域に出向き、事業所への理解と協力を働きかけ、地域とのつながりを持てるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ジェントルハートみつ

(ユニット名) 琴音

記入者(管理者)

氏名 浅原 健二

評価完了日

26 年 11 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設の理念とは別に理念を作成しスタッフルームに掲示している。ユニットごとに目標を作成し掲示している。「自分らしく」「その人らしさ」を目標としたホーム作りを目指している。	
			(外部評価) 法人全体の基本理念と基本方針とは別に、「ご利用者様の尊厳を大切にし、個別支援に努める」という事業所独自の理念を作成している。さらに、職員間で話し合い、ユニット毎の目標を作成し、実践できるように努めている。申し送り時等に法人の基本理念等を唱和し、職員に意識づけをしている。利用者が笑顔で生活できるよう、職員も笑顔で対応することを心がけて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小学校の運動会の応援に参加したり、地方祭にて子供たちや地域の方と交流を図っている。また、施設に地域の小学生を呼び、慰問を行った。ご利用者が地域とつながりながら生活していけるように努めている。	
			(外部評価) 高齢者福祉施設の開設時に施設長が地域に出向き、事業所の説明を行い協力を働きかけている。地方祭には神輿や子どもたちの訪問がある。小学校が近く運動会に参加見学したり、小学生が事業所を訪れ歌を歌ってくれたりリコーダーを演奏してくれるなど、相互の交流をしている。小学生の訪問時には肩も叩いてくれ、涙を流す利用者もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献は当法人の理念でもあり、地方祭で地域の方と交流することで、認知症の理解に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では利用者状況や行われた行事、今後の行事 予定を報告している。出席された方々と意見交換を行い、 サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、施設長等の参 加を得て開催している。会議では利用者の状況や活動報告 のほか、参加者から意見を聞いている。家族は仕事や遠方 の方が多いため参加は少ないが、参加した家族から意見や 要望を聞き、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 市町村との連携については、運営推進会議の際に意見交換 を行っているが、連絡を密にするまでには至っていない。 今後は、実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築いていく。	
			(外部評価) 市担当者には運営推進会議に参加してもらっているが、意 見交換にはいたっていない。地域包括支援センター主催の 三津浜地区グループホーム連絡会に参加し、事業所の状況 報告など情報交換をしており、今後さらに協力関係を築い ていきたいと考えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員には身体拘束についての研修を行っている。何が身体 拘束にあたるのか、マニュアルや指針、不適切ケアチェッ クシートを活用し職員が理解できるように努めている。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修を実施して職員に理解を促し、参加 できなかった職員には資料等を回覧している。法人で「身 体拘束チェックシート」と「不適切ケアチェックシート」 を作成し、定期的に職員へ確認している。事業所は高齢者 福祉施設の2階にあり、出入りできるエレベーターがリビ ングから死角となる場合が多いため、安全のため使用には 暗証番号の入力が必要となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止についての研修を受けている。不適切ケアについては3ヶ月に1回見直しを行い、振り返り、虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度についての勉強会を開き、全職員が理解できるように回覧し、周知している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や申し込み時に説明を行い、その際に不安や疑問点を伺い、ご利用者・ご家族の理解、納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、匿名での意見を伺えるようにしている。ご家族が面会に来られた時、電話で話した時にはご利用者の暮らし等で気になる点はないか、要望を伺っている。	
			(外部評価) 意見箱を設置し、自由に意見を出してもらえるようにしているが、ほとんど要望等は出てこない。面会時に職員から家族に話しかけ、してもらいたいことなどを聞き対応している。家族から「居室をきれいに掃除してほしい。」という意見が出され、清潔保持に努めている。また、家族から「訪問者へのお礼をしたい」という意見など相談に応じている。利用者から「冬物を取りに帰りたい」という意見が出され、家族に相談し実現している。利用者の買い物など外出の希望もあり、個別支援を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に一度、全職員の意見を集約し、フロア会やサービス向 上委員会などを行っている。それ以外でも、意見や提案が ある際は、随時聞き取りを行い、反映させている。 (外部評価) 事前に職員から行事にしたいことなどの意見や要望を出し てもらい、フロア会やサービス向上委員会、褥瘡委員会等 で話し合いをして反映するように努めている。職員から 「利用者を外に連れて行ってあげたい」という意見が出さ れ、検討している。具体的にはレクリエーションや外出支 援など利用者との関わりの中で感じた提案などが多く、反 映できるよう努めている。また、職員には3か月に1回 「自己評価チェックシート」を記入してもらい、ユニット リーダー等が確認し話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 年2回、職員の実績、個々の力を評価し、給与などの賃金 アップや、向上心を持って働ける職場環境を整えている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間活動計画の中で内部、外部の研修や勉強会を予定し、 全ての職員が質・技術を向上させていけるように研修を受 ける機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ケアマネージャーが地域のグループホームとの連絡会に参 加し意見交換できるように取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に面談し、ご本人や家族からこれまでの生活につい て話を伺っている。入居後はこまめに声掛けを行い、関わ る事でホームで安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) どのような点で困っておられるのか、不安に感じているのか、また今後どのようなサービスを利用していききたいかなど、耳を傾け応える努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時ご本人やご家族の状況等を確認し、今まで利用されていたサービスを継続して利用できるような柔軟な対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 清掃や洗い物、おやつ作りなど、ご利用者と職員が共に生活ができる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご利用者の買い物などを、ご家族の状況を考慮しながら、できるだけ家族様にお申し、積極的に面会に来てもらえるようお願いしている。ホームに入ってから、以前から関係のある地域との交流に参加できるよう家族様にも協力をさせていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前から通われていた囲碁クラブに入居してからも継続的に通えるようご家族の協力のもと支援に取り組んでいる。 (外部評価) 三津地区の利用者が多く友人や知人の訪問があり、職員は訪問しやすい心がけている。囲碁が趣味の利用者には囲碁クラブに継続して参加できるよう支援している。以前から親交のある教会の牧師が月2回訪問してくれている。家族の協力を得て、お盆に自宅に帰ったりお墓参りに出かけている利用者もいる。月2回施設の1階のフロアを使用し、音楽療法で季節の歌を歌ったりハンドベルの演奏を楽しんでおり、特別養護老人ホームの利用者とも顔馴染みの関係となってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が居室やリビングで会話をされたり、一緒に散歩をしたりして関わり合いをもたれている。また、ご利用者が1人であるときなどは孤立しないよう職員が声かけを行い、支え合えるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 特養に移りたい方がおられる場合、特養と情報を共有し移れる体制を取り、関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所時や日頃より、ご本人やご家族に生活面での希望や意向を伺っている。本人様から伺うのが難しいときや、ご家族から特に要望などが無いときは、本人様らしい暮らしができるよう職員と話し合い、考えながら対応している。 (外部評価) 入居時に利用者から思いや意向の聞き取りをしている。思いを聞くことが困難な利用者には、家族から情報を聞いている。利用者毎の担当者を決め、家族にもこまめに連絡を取り、職員全員で話し合いながら利用者本位のサービス提供に繋げている。職員から「本人のしたいことを手紙などで伝えてはどうか」という意見が出され、現在検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、ご本人やご家族から聞き取りを行い、これまでのライフスタイルを把握し、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り、日々の記録、直接ご利用者本人と関わることで、日々の心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族から、今まで困っていたことや要望などを伺い、職員が意見を出し合って今まで関わりをもたれていた方の気づきや意見なども参考にアイデアを提供してもらい現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者自身に意見などの確認が難しい場合には、家族や職員の意見を聞きながら、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回カンファレンスで職員等の意見を出し合い見直しをしている。職員同士が日々の関わりの中で気付いたことや改善したらと良い思うことなどを確認し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、行動、心身の状態を24時間シートに記録し、情報の共有、ケアプランへの反映に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居後も以前から利用されていた外部のサービスを継続されているご利用者もおられ、柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 囲碁クラブへの参加、地域の小学校の運動会の応援、地方祭、消防訓練へ参加し、交流を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人、ご家族には入居時に医療を受ける際の希望を聞き、要望に沿って対応している。月に2回かかりつけ医の往診がある。必要に応じて入居後も適切な医療を受けられるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続することはできるが、月2回往診での健康管理をしてもらえることから、希望して協力医をかかりつけ医に変更する利用者が多い。眼科や皮膚科などの専門医は、家族が受診介助しているが、必要に応じて職員が同行する場合もある。併設の小規模特別養護老人ホームと兼務であるが、看護師が常駐しており、緊急時にも迅速に対応できる体制が取れている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) ホームには特養と兼務する看護師がいる。健康面での困った事の相談や、情報を共有し適切な医療、看護が受けられるようにして支援している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) これまでに入院されたご利用者はおられない。今後、入院された際は、病院関係者と情報交換や情報収集、ご家族との話し合いを行っていく。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) これまでに終末期を迎えたご利用者はおられないが、お一人今後状態が悪化するおそれのあるご利用者がおられる。早い段階でご家族や医療関係者と話し合い、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、入所時に利用者や家族の看取りの希望があれば、実践できることを伝えている。以前他の施設で看取りを経験した職員はいるが、開設1年目のため事業所での看取りの経験はない。看取りへの家族の理解と職員の不安の軽減のため、今後勉強会を予定している。急変の可能性ある利用者が現在おり、近くの総合病院と連絡を密にしながら対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故、感染症、急変時の対応マニュアルがある。緊急時、適切な対応ができるよう年2回研修を行い、回覧し周知している。事故に関しては、ヒヤリはっと・事故報告のカンファレンスの際、職員と今後の対応について話し合い事故防止に取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 海沿いにホームが建っていることもあり、運営推進会議でも取り上げられた。消防署の避難訓練時、津波がきた時の最善の避難方法についてレクチャーを受けた。消防の避難訓練を回覧し全職員に周知した。 (外部評価) 高齢福祉施設合同で消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、利用者も一緒に参加して初期消火などを行い、アドバイスももらっている。事業所の隣には消防署があり、避難場所となっている小学校は近くにあるため、災害発生時には迅速に対応することができ安心感がある。事業所は海沿いにあるため、道路より土地を高くして建築をしている。また、施設全体で備蓄品を用意している。	事業所は2階にあり夜間などの災害発生時には、職員だけの避難誘導には限界があるため、地域住民にも呼びかけ避難訓練に参加してもらったり、高齢者福祉施設内の構造や避難ルートを知ってもらったりするなど、協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) おむつ交換や入浴、トイレ介助時は戸を閉め、プライバシーの確保に努めている。言葉遣いも不適切ケアチェックや自己評価チェックシートで定期的に自らを振り返り、誇りや、プライバシーを損ねないよう取り組んでいる。 (外部評価) 介助時や日常会話など不適切な行為や声かけはないか「不適切ケアチェックシート」を使用し、振り返りや確認を行い、適切なケアや言葉づかいができるよう努めている。気になることがある場合には、職員同士で話し合いをしたり注意し合ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 水分補給時やおやつ以外でも起床時や入浴前にご利用者と一緒に衣類を選んで頂き、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各ユニットの目標に「自分らしく」や、「その人らしさ」が掲げられている。また、入浴なども一人ひとりのペースや体調を配慮し支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝起床時にご利用者本人に衣類を選んで頂いている。また、ご利用者様の中には愛用の化粧品で化粧をして頂いている方もいる。身だしなみ等でこだわりのある方にはその人らしさを出すように心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は厨房にて調理しているが、カレーやシチューおやつ作りなどでは食材の下ごしらえなどご利用者それぞれの力が活かせるよう取り組んでいる。食後は、皿洗いやテーブル拭きなどをして下さるご利用者もおられる。	
			(外部評価) 管理栄養士がメニューを決め、高齢者福祉施設合同の厨房で調理している。利用者から食事がつまらないという意見が出され、管理栄養士等と相談し月2回利用者の希望のメニューが提供できるようになった。利用者と一緒にテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。また、カレーやシチューの日を設け、ユニットのキッチンで利用者と一緒に野菜の皮むきなど調理をしたり、週2回おはぎやさくら餅などのおやつを利用者と一緒に作り、食が楽しみになる工夫もしている。また、準備や食器洗いを自分の役割として手伝っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量をチェックしてどのくらい摂取できているか確認している。ご利用者の状態やペースに合わせて、無理に勧めることのないようケアプランにも入れ支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔に努めている。自分で歯磨きができる方には自分でしていただき、清潔にできているかを職員が確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 早め早めのトイレの声かけや誘導を行い排泄の失敗をしないよう取り組んでいる。すぐにオムツにするのではなく、立位が保てる方や、座位保持が可能な方はトイレで排泄していただくようにしている。	
			(外部評価) 家族から自宅でトイレの場所が認識できないため失禁があったという利用者の経験などを聞き、24時間シーツの排泄チェックを確認しながら、さり気なく誘導したり介助をしたりしている。自力でトイレに行ける利用者には、見守りで対応している。なるべく自然排便できるように歩行や運動をしたり、お茶やシロップゼリーなどで水分補給をしてもらい、自然な排便ができるよう努めている。また、オムツを使用している利用者など、状態に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味のご利用者には水分量を増やし、歩行をケアプランに入れるなどして、腸の活性化を促し自然排便ができるよう取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回入浴して頂けるよう支援している。ご利用者一人ひとりのその日の気分や状態により入浴日を変更している。全員が入浴できるよう特浴も使用し入浴してもらっている。	
			(外部評価) 週2回を基本として入浴することができる。毎日入浴したいという希望はないが、一番風呂や湯加減などの希望に沿えるよう支援している。個別浴槽や手すりは可動式で、利用者の状態や職員の介助がしやすいよう変更でき、自立に向けた支援をしている。その日の気分が入浴したがる利用者には無理強いせず、入浴日を変更したり時間や職員を代えて声かけを工夫したりしている。同性介助の対応もしている。また、高齢者福祉施設の3階には特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて使用し、安心安全に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者一人ひとりの状態、希望に応じて休息等をとっていただき、寝かせきりや、起こしっぱなしにしないよう生活リズムを整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの内服薬の薬剤情報提供書をファイルし副作用などを理解し状態の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみや洗い物、台拭き、清掃など役割を持った生活の支援に取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外部のサービスや、家族との協力でもらっている。11月に買い物かドライブを計画している。	
			(外部評価) 外の空気を吸いに散歩に出ることはあるが、事業所は高齢者施設の2階にあるため、なかなか外出する機会は少ない。事業所内の廊下は長く、歩いたり1階にジュース等を買に行ったりしている。利用者全員でドライブに出かけたことがあるが、それ以外の買い物などの外出は少ない。以前から利用していた外部のサービスや家族の協力で外出している利用者もいる。管理者は利用者一人ひとりの個別の外出支援や希望に添った外出計画を検討している。	自宅となるべく同じように過ごしていただくためにも、日頃から庭に出て季節の花や木々を見たり、買い物に出かけたりするなど気分転換し、利用者の心や身体が活性化することを期待したい。また、家族の協力だけでなく、ボランティアの協力や職員の工夫で外出をする機会が増えることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの力に応じてお金を所持して頂いている。自動販売機にてジュースを購入して頂いている。外出時に各自お金小遣い程度のお金を持ち、買い物をして頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話がしたいと話される時、訴え時はいつでも家族と連絡が取れるようにしている。また、携帯電話を所持しているご利用者もおられる。手紙のやりとりも自由にして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日清掃を行い、居心地のよい共用生活がおくれるように努めている。各ユニットで季節ごとに壁面を変更し季節感を出している。	
			(外部評価) 事業所から海が近く、サンルームのソファから海の絶景が眺められ、利用者は船の行き来を見ながらくつろいでいる。廊下等にはマッサージチェアやソファ等が置かれ、テレビを見たり洗濯物を畳んだりするなど、利用者は思い思いの場所でゆっくり過ごしている。空気清浄機が置かれ、快適な環境づくりをしている。また、壁には利用者と一緒に作った季節の折り紙が飾られ、季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 海が見えるサンルームでゆっくり過ごしていただいたり、ソファに座り気の合った複数のご利用者同士談話をしながら過ごしていただいたりと思い思いに自由に過ごしていただいている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みのある物や家具などを持ってこられたり、居室にアルバムや写真立てを置くなどして本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 居室はベッドや洗面台、エアコン、クローゼットなどが備え付けられている。自宅から利用者の使い慣れたソファやテレビ、ぬいぐるみなどを持ち込み、家族の写真を飾るなど居心地の良い空間づくりをしている。居室の床にはカーペットや畳を敷き、靴を脱いでゆっくりソファなどでくつろげるようにしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 浴室や廊下、トイレ、洗面台に手すりをつけ安全に自立した生活が送れるようにしている。	